
かみさま、出張中

相良砂莉

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

かみさま、出張中

【Nコード】

N2983V

【作者名】

相良砂莉

【あらすじ】

日々真面目に仕事をしていたある日、上司から出張いっついでと書類を渡されます。え？どこへ？ 異世界です。

勤めていた会社は、実は異世界の問題を処理する機関だったようです。神様じゃないんですけど、神様と言われて、仕事なんて仕方なく問題解決に乗り出します。

問題って・・・え？世界滅亡の危機？！冗談じゃないですよ！早く帰してくださいよ！・・・な話（になる予定）

ブローグ

「瀬名さん、出張行ってください」

「了解です！」

今思うと、どうしてあんなに元気に返事しちゃったのが悔やまれる。

いや、何元気な返事を悔やむとか、違うし。

でも、社会人なら、即返事するよね？

わたし、今朝まで会社で社会人、してました。

入社一番に、文章がびっしりと書かれた書類を渡された。

表紙には、「RATHRA PROJECT - Correction version 1501」とある。

厚みは5ミリ程あって、パラパラめくると文章だけではなく、どこかの地図がカラーで印刷されている。

どうやら会社に入って初めてのプロジェクトリーダーのようだ。

初めての・・・リーダーだあ。

入社2年目。

ここ十数年、毎年のように就職氷河期だと言われ続け、この状況が当たり前だと感じるようになってきている世代の人間で、何社も何社も受けては落ち、受けては落ちを繰り返して、もう自分でも受けたのが何社目だったのかも、あいまいになっていた時、内定通知をもらったのが今の会社だった。

第一希望の職種ではなかったものの、希望する部署への配属となり、毎日毎日がむしやらにやってきました。

簡単な仕事しか振り分けてもらえなかった去年の夏は、やりがいもなく転職すべきか悩んだ時期もあったけれど、こうしてプロジェクトリーダーを任されるようになるなんて。

うつつ~~~~頑張ったかい、あつたよね?! 今日みんな誘って飲も飲も!

内心るんるん気分、先輩の話聞きつつ、相槌を返す。

今かかえている仕事については彼が引き継いでくれるらしい。

よかった・・・。

入社して主にメールでの苦情処理というか、陳情処理ばかりで正直ストレスがたまっていたところだ。

処理するのはいい。パソコンの前には何時間座っていても苦にはならない。

だが、そのメールの中身といったら・・・。

ああいけない、先輩が反応を待っている。

思わず思考が飛びそうになったのを気を引き締める。

「川上さん、その、私が担当してたエリアとは違うんですか?」

「今回は、瀬名さんが担当していたエリアの、隣ですかね。」

私も今朝聞いたばかりですが、どうやら急を要する内容のようです。

まずは現地に飛んで、現地のもの《 》に聞くといいでしょう」

眼鏡の奥の切れ長の目で私を一瞥すると、私の右手を取ったので、ドキリとする。

「不安もあるでしょうが、新人とはいえ私たちが見込んだ人材です。きつとやり遂げられますよ」

励ましの言葉とともに、右手に何やら透明な3センチの立方体を載せてくれた。

「通行許可証ですので、失くさないで下さい」

中に小花のようなものが浮かんでいる。アクリル？ なんだこれ。

はい、と大きく返事を返しながら、「自席に戻って出張の準備をして、ああ家にメールしておかないと」と思っていると、右手に持ったアクリルボールもどきが、光を帯びた。光はどんどん大きくなってくる。

え？え？ と焦って川上さんの方をみると、片手をあげて――

「いつてらっしやい」

何のことだと疑問を口にしようとした時、ぶわっと白い光が溢れ出し――

意識が、飛んだ。

プロローグ（後書き）

主人公は瀬名さん（女性）です。

1 目次 (前書き)

短いです。

1 - 目覚め

今までの人生の中で、気を失ったことはあるだろうか。
気を失う・・・気絶のことだ。

今まで一度だけ気絶したことがある。

それは、車に搭乗中に逆走してきた車に衝突されたとき。

後部座席に座っていたのだが、車が迫ってくるのがやけにゆっくり見えていて、家族の叫び声が頭に響いて

暗転。

本当に目の前が真っ暗になった。

次に気が付くと、目の前に何人もの人が顔を覗き込んでいた。

あの時を思い出すと、いまだにあの、身を、心を引き裂かれるような叫び声が、はっきりと聞こえてくるような気がする。

ああ、詳細を思い出すと気が滅入るところか、思考がどんどん沈んで行ってしまい、浮き上がるのにかかりの時間を要する羽目になるんだから止めよう。

「今度」のは、ちょっと違っていた。

あの、目もくらむような白い光が視界を覆った直後の記憶はない。

意識が徐々に覚めてゆく不思議な感覚を味わい、視界の定まらないまま周りを見渡すと、一人掛け用の椅子に机、カーテンの閉まった窓、そして上部がアーチ状になった出入口。扉は付いておらず、廊下とはカーテンで仕切られているようだった。

体がどうやらしびれていて、指先も満足に動かない状態だったけれど、その時はまだ不安はなかった。

カーテンの向こうは明るく、出入口からも微かに人の声が聞こえるから、まだ日中のようだ。

どうしてここにいるんだらうと、ぼんやりと記憶を辿っているうち

に、眠ってしまった。

目を覚ますと、すでに辺りは真つ暗で、机があったと思われる場所がぼんやりとした明りを放っている。

あれは・・・なんだろう。

何度か瞬きしながら注視していると、はっとその物体に思い至り、目の前で手を叩かれたかのように、はつきりと意識が覚醒した。

その後は一騒動あった。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能たんのうしてください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n2983v/>

かみさま、出張中

2011年9月18日14時48分発行